中央官廳防空研究會書類

内閣官房總務課

研究員 佐野理事官

国立公文書館
分類
排架番号 2A 37 委1340

アジア歴史資料センター

五．中央官庁防空研究会

目次

一、中央官廳防空研究會實施ニ關スル申合セノ件
二、研究実施豫定表
三、研究実施ニ関スル諸通牒
四、印刷局ノ官報製造機能破壊ノ場合ニ於ケル非常對策
五、中央防空研究会研究記事資料（内閣）
六、中央官庁防空研究会ニ関スル事後通報事項（陸軍省）
七、特殊地図返納ノ件

内閣

済

陸乙 八 昭一八 二 十九

内閣官房總務課

內閣書記官

內閣書記官

昭和十八年二月十九日

内閣官房總務課

陸軍省兵務局防衛課宛

中央官廳防空研究會實施ニ關スル申合セノ件

一

本月十七日附照會ニ係ル標記ノ件當方ニ於

[illegible]別紙意見之無キ候條此段回答ニ及ヒ候

年　月　日

中央官廳防空研究會實施ニ關スル申合セノ件

昭和十八年二月十七日

陸軍省兵務局防衛課

内閣官房総務課　御中

別冊申合セニ依リ中央官廳防空研究會ヲ實施致度キニ付御意見來ル二月二十日迄ニ承ハリ度

追テ本件ハ次官會議ノ申合セト致スニ付申添フ

18.2.18

并ニ別紙意見之無之候條此段回答ニ及ビ候

別冊

秘

中央官廳防空研究會實施要領申合セ

第一　目　的

空襲必至ノ現下情勢ニ鑑ミ中央官廳ノ處理スベキ防空事務ヲ研究趨得スルト共ニ情勢ニ即應スル國內防空態勢ノ整備強化ヲ促進ス

研究要目概ネ左ノ如シ

一、昭和十八年度防空計畫設定上ノ基準關係事項

二、中央官廳ノ主掌スル官民防空ノ形而上下ニ亙ル主要缺陷ノ除去

三、空襲非常事態ニ應ズル緊急特ニ官民防空ニ對スル軍ノ協力

第二　研究會ノ構成

一、研究會ハ陸軍次官之ヲ主宰ス

二、研究會ノ參加範圍ハ各省、企畫院、情報局ノ關係部局トス

但シ必要ニ依リ前記以外ノモノヲ參加セシムルコトアリ

三、研究會ノ指導ノ爲指導部ヲ設ク

アジア歴史資料センター

右別紙ニ關シ意見之無ク候條此段回答ニ及ビ候

指導部

指導部長　陸軍省兵務局長
　　　　　海軍省軍務局長

指導部員　陸軍省、海軍省、企畫院其ノ他所要廳等ノ關係者若干名

四、研究員

研究事項ニ應ズル各關係部局ノ局（部）長又ハ課長以下ノ高等官トス

但シ各廳ハ研究會實施間ヲ通ズル研究主任官一名ヲ概ネ關係部局毎ニ定メ置クモノトス

第三　研究會實施期日及場所

一、實施期日

三月中下旬ニ亘リ概ネ六日間トシ對策立案等ノ爲所要ノ日ヲ隔シテ研究ヲ實施スルモノトス

二、實施場所

別ニ定ム

第四　研究實施ノ要領

一、研究ハ昭和十八年度ニ豫期スル空襲ヲ基礎トシテノ被害狀態ヲ考究シ之ニ基キ兵棋又ハ圖上ニ依リ行フモ實行性ヲ的確ニ把握スル爲要スレバ實行部面ニ就キ一部ノ檢討ヲ行フコトアリ

二、指導部ハ想定及狀況ヲ示シ之ニ基ク研究事項ヲ提示シテ研究ノ全般ヲ指導ス

但シ研究指導ニ資スル爲豫メ研究事項ニ關係アル關係廳ノ防空對策特ニ計畫、準備ノ度等ニ關スル概要ノ提出ヲ求メ置クモノトス

三、研究員ハ研究事項ニ基キ所管業務ニ關シ執ルベキ對策ヲ立案シテ指導部ニ提出シ之ニ基キ全員合同シ又ハ各別ニ研究ス

四、想定ニ基ク研究ノ終了後綜合研究ヲ行フ

第五　經費

經費ハ參加各廳ニ要スルモノハ其ノ廳ノ支出トシ指導ニ要スルモノハ陸軍省ノ負擔トス

第六 其ノ他

各廳ニ於ケル研究參加者以外ノ關係者ハ研究會ノ見學ニ勉ムルモノトス

昭和十八年三月

中央官廳防空研究會
指導部

陸軍省防衛課
桃井中佐

中央官廳防空研究會規定

研究員ノ小生ハ不適當ト存ジマスノデ適當ニ御變更
乞フ
佐野

本件ニ關シ來ル五日迄ニ御意見承リ度
追而通知ナキトキハ意見ナキモノト承知致度
尚研究員中研究主任官ヲ通知相成度
三月二日 陸軍省防衛課

內閣官房總務課

會ノ節

參集 當日午前

服装 明治節

覧

内閣官房總務課

秘

内閣書記官

本件ニ關シ来ル五日迄ニ御意見承リ度
追而通知ナキトキハ意見ナキモノト承知致度
尚研究員中研究主任官ヲ通知相成度
三月二日 陸軍省防衛課

中央官廳防空研究會規定

昭和十八年三月

中央官廳防空研究會
指導部

陸軍省防衛課
桃井中佐

第六 其ノ他

各廳ニ於ケル研究參加者以外ノ關係者ハ研究會ノ見學ニ勉ムルモノトス

第一 目的

空襲必至ノ現下情勢ニ鑑ミ中央官廳ノ處理スベキ防空業務ヲ研究體得スルト共ニ情勢ニ卽應スル國內防空態勢ノ整備强化ヲ促進ス

研究要目概ネ左ノ如シ

一、昭和十八年度防空計畫設定上ノ基準關係事項

二、中央官廳ノ主掌スル官民防空ノ形而上下ニ亘ル主要缺陷ノ除去

三、空襲非常事態ニ應ズル對策特ニ官民防空ニ對スル軍ノ協力

第二 研究會ノ構成

一、研究會ハ陸軍次官之ヲ主宰ス

二、研究會ノ參加範圍ハ內閣及各省ノ關係部局トス

但シ必要ニ依リ前記以外ノモノヲ参加セシムルコトアリ

三、研究会指導ノ為指導部ヲ設ク

指導部

指導部長　陸軍省兵務局長
　　　　　海軍省軍務局長

指導部員　陸軍省、海軍省、企画院其ノ他所要庁ノ関係者若干名

四、研究員

研究事項ニ応ズル各関係部局（部）長又ハ副長以下ノ高等官トス

但シ各庁ハ研究会実施間ヲ通ズル研究主任官一名ヲ概ネ関係部局毎ニ定メ置クモノトス

五、研究会指導部及研究員ノ編成別冊ノ如シ

第三　研究会実施期日及場所

一、実施期日

三月十六日ヨリ開始シ同二十五日ニ亘ル間ノ概ネ六日間トシ対策立案ノ為所要ノ日ヲ隔シツ研究ヲ実施スルモノトス

二、実施場所

別ニ示ス

第四　研究実施ノ要領

一、研究ハ昭和十八年度豫期スル空襲ヲ基礎トシテノ被害状態ヲ考究シ之ニ基キ兵棋又ハ図上ニ依リ行フモ実行性ヲ的確ニ把握スル為要ス

レバ實行部面ニ就キ一部ノ検討ヲ行フコトアリ

二、指導部ヲ想定及狀況ヲ示シ之ニ基ク研究事項ヲ提示シテ研究ノ全般ヲ指導ス

但シ研究指導ニ資スル爲豫メ研究事項ニ關係アル關係廳ノ防空對策特ニ計畫、準備ノ度程ニ關スル資料ノ提出ヲ求メ置クモノトス

三、研究員ハ研究事項ニ基キ所管業務ニ關シ執ルベキ對策ヲ立案シテ指導部ニ提出シ之ニ基キ全員合同シ又ハ各別ニ研究ス

四、想定ニ基ク研究ノ終了後綜合研究ヲ行フ之ガ爲參加各廳ハ關係部局毎ニ資料ヲ取纏メ指導本部ニ提出スルモノトス

五、研究會實施豫定別表ノ如シ

第五　宿泊、給與、經理

一、經費ハ參加各廳ニ要スルモノハ其ノ廳ノ支出トシ指導ニ要スルモノハ陸軍省ノ負擔トス

二、指導部ノ職員ハ業務ノ關係ニ依リ詰切リ勤務スルモノトス

第六　其ノ他

一、各廳ニ於ケル研究參加者以外ノ關係者ハ研究會ノ見學ヲ勉ムルモノトス

參加各廳以外ノ者ノ見學ハ指導部長ノ承認ヲ要ス

二、本研究會實施ノ事實ハ發表スルヲ妨ゲザルモ其ノ内容ニ關シテハ秘密トス

三、其ノ他細部ニ關シテハ別ニ示ス

別冊

中央官廳防空研究會指導部及研究員編成表

一、指導部

指導部長　陸軍省兵務局長　那須少將

　　　　　海軍省軍務局長　岡少將

指導部員　別紙第一ノ如シ

指導部庶務　陸軍省防衛課　松木少佐

　　　　　　同　猪岡中尉

一、研究員　別紙第十、第十一ノ如シ

別紙第十一

研究員

内務省

官房文書課	齊藤	課長
同	弘津	事務官
防空局	上田	局長
同　企画課	物部	課長
同	楢田	事務官
同	川島	事務官
同	宮地	事務官
同	新海	技師
同　指導課	鎌林	課長

防空局指導課　久下事務官
同　秋山事務官
同　建築課　井上課長
同　鬼丸事務官
同　石井技師
警保局警務課　小川課長
同　石岡事務官
同　保安課　今井課長
同　近藤事務官
國土局　新井局長

國土局道路課　岩澤課長
同　大熊事務官
同　港灣課　島課長
同　谷口事務官
同　計畫課　吉富課長
同　櫻井技師

外務省

官房會計課　佐藤課長

大藏省

官房會計課　松尾課長
同　林事務官
銀行局特別銀行課　楠田課長
同　三井事務官

アジア歴史資料センター

營繕管財局營繕課長　沼田
同　清水事務官

司法省

刑事局思想課長　井本
同　勝田事務官

文部省

官房會計課長　柴沼
同　田中事務官
體育局勤勞課長　石井
同　岩野體育官

遞信省

總務局總務課長　槻
同　今井事務官

鐵道省

監督局長　中村
監督局業務課長　加藤
同　辻畑事務官
工務局長　松前
同　線路課長　吉田
海務院長　今村
同　猪口海務官
電氣局企畫課長　山口
總務局動員課長　小磯
同　松田鐵道官
業務局長　堀木

農林省

畜務局保安課　立松課長

同　竹内鐵道官

同　運行課　宮田課長

同　吉良鐵道官

總務局總務課　石坂課長

同　小倉事務官

食糧管理局　湯川局長

同　第一部企劃課　木村課長

同　村田事務官

同　第二部管理官　遠藤課長

食糧管理局第二部管理課　武田事務官

商工省

總務局總務課　美濃部課長

同　小池事務官

同　動員課　入江課長

同　永山事務官

厚生省

官房總務課　小林課長

同　瀧野事務官

生活局保護課　青柳課長

同　増子事務官

同　住宅課　豊原課長

情報局　官房第一部第一課　稲田課長
内閣總務局　總務課　稲田課長
佐野理事官

備考

一、〇印ハ研究主任官ヲ示ス
研究主任官ハ研究業務ノ主幹トナリ關係廳間ノ連絡其ノ他ニ任ズ

二、本表ニ示ス以外ト雖モ研究事項ニ應ジ各部局等ニ適宜研究員ヲ設クルモノトス

三、指導部員ハ研究員ヲ兼ヌルモノトス

「中央官廳防空研究會規定」ノ別表

研究實施豫定表

月日（曜）	區分	行事
三月十二日（金）	研究準備	1. 準備書類ノ配布及軍部外研究員ニ對シ想定及空襲被害算計ノ基準ヲ説明ス 2. 關係各廳ニ想定ニ基ク被害狀況ノ檢討ヲ提示ス
〃十三日（土）	〃	
〃十四日（日）	〃	關係各廳被害狀況ノ檢討ヲ提出ス
〃十五日（月）	〃	
〃十六日（火）	研究實施	1. 研究會ヲ開始ス 2. 空襲被害ノ檢討及被害ヨリ生起スル影響ヲ研究ス 3. 狀況ヲ示シ被害ニ基ク對策研究ヲ提示ス
〃十七日（水）	〃	
〃十八日（木）	〃	關係各廳對策ヲ提出ス
〃十九日（金）	〃	運輸、交通、通信及軍需生産ノ確保竝治安維持
〃二十日（土）	〃	ニ關スル對策ノ研究ヲ行フ
〃廿一日（日）	〃	
〃廿二日（月）	〃	1. 政治中樞機關ノ機能維持、消防、防火其ノ他ニ關スル研究ヲ行フ 2. 狀況ヲ示シ第二次空襲ニ對スル防空力及防空對策ノ緊深性ニ關スル研究ヲ提示ス
〃廿三日（火）	〃	要スレバ實行部面ニ就キ檢討ス
〃廿三日（水）	〃	
〃廿五日（木）	〃	第二次空襲ニ基ク研究及綜合研究ヲ行フ

陸軍省兵務局防衛課

供覧

中央官廳防空研究會準備並説明實施ノ件

昭和十八年三月九日

中央官廳防空研究會
指導本部

内閣總務局總務課 御中

中央官廳防空研究會規定附表第一ニ示ス研究會實施豫定表ニ依ル三月十二日行事ハ左記ニ基キ實施致度通牒ス

左記

一、日時 三月十三日一四〇〇ヨリ

二、場所 軍人會館

三、出席者 指導部員
研究員全員トス

四、其ノ他 從來配布セシ關係書類ニ一切携行相成度

三

中央官廳防空研究會規定一部變更ノ件通牒

昭和十八年三月九日

中央官廳防空研究會
指導本部

首題ノ件左記ノ通變更ス

一、實施場所　九段軍人會館

二、研究會實施豫定表中「十六日研究會ヲ開始ス、、、」ヲ十七日トシ爾後行事豫定ヲ一日ヅツ繰リ下ゲ二十六日終了豫定

十八、三、十三 受
花 中央防空研究会

中央官廳防空研究會指導部及研究員編成表

一、指導部

指導部長 陸軍省兵務局長 那須少將

海軍省軍務局長 岡中將

指導部員 別紙第一ノ如シ

指導部庶務 陸軍省防衛課 松木少佐

同 猪岡中尉

一、研究員 別紙第一、第二ノ如シ

別紙第一

指導部員兼研究員（順序不同）

陸軍省

軍事課　白石少佐

軍務課　山田中佐

報道部　廣石少佐

兵務課　矢木中佐

　　　　佐孝中佐

兵備課　宮川少佐

防衛課　上田大佐

　　　　村上中佐

　　　　桃井中佐

　　　　安成少佐

　　　　幸村少佐

　　　　池田少佐

　　　　松木少佐

	北澤	少佐
馬政課	鶴間	少佐
獸醫課	池田	少佐
戰備課	森川	中佐
	森山	少佐
燃料課	宮里	少佐
交通課	泉	少佐
	平岩	少佐
主計課	松本	中佐
監査課	三原	少佐
衣糧課	古宇田	少佐
建築課	伊藤	少佐
	内藤	少佐
衛生課	逆瀬川	少佐
徴募課	高月	少佐
法務局	樋口	大尉

參謀本部

杵澤	少佐
浦	少佐
吉武	大佐
大坪	中佐
釜田	少佐
佐藤	少佐
恒石	少佐
佐野	少佐
馬淵	少佐
楢山	少佐
野尻	少佐

航空本部

粟野原	中佐

兵器行政本部

綜技術本部

防衛總司令部

東部軍司令部

憲兵司令部

讃谷少佐

花本少佐

河村少佐

土岐技師

佐々中佐

淨法寺技師

高居大尉

河上大尉

加藤大佐

緒方少佐

逸見中尉

稻留中佐

川江中佐

宮崎少佐

第一鐵道輸送司令部

海軍省　軍務局

兵備局

軍令部

海軍施設本部

企畫院　第一部第一課

德永少佐

白濱中佐

安野大尉

馬場中尉

山本大佐

藤田中佐

古濱少佐

山田大佐

櫛引中佐

金岡大佐

今里中佐

工藤中佐

林課長

豐島調査官
第二部第一課　森崎事務官

別紙第二

研究員（順序不同）

内務省

官房文書課　齋藤課長
○同　弘津事務官
官房會計課　福田事務官
防空局　上田局長
○同　企畫課　物部課長
同　植田事務官
同　川島事務官
同　宮地事務官
同　新森技師
同　町田技師
同　指導課　館林課長
同　久下事務官

同　　　　秋山事務官
同　建築課　井上課長
同　　　　鬼丸事務官
同　　　　石井技師
○警保局警務課　小川課長
同　　　　石岡事務官
同　保安課　今井課長
同　　　　川口事務官
同　外事課　小田切事務官
同　經濟保安課　濱淵事務官
國土局　新居局長
○同　總務課　宇佐美課長
同　　　　木村事務官
同　道路課　岩澤課長

外務省
大藏省

同　港灣課　島野課長
同　　　　谷口事務官
同　計畫課　吉富課長
同　　　　櫻井技師
同　　　　大山事務官
○官房會計課　佐藤課長
官房會計課　松尾課長
○同　　　　林理事官
○總務局文書課　狩谷事務官
同　企畫課　野田書記官
銀行局特別銀行課　櫛田課長
○同　　　　三井事務官
監理局戰時保險課　村岡課長

○同　北川事務官
營繕管財局業務課長　沼田
同　清水理事官
○同　中榮技師

司法省

○官房秘書課長　汀原
同　會計課長　石田
同　飯島技師
刑事局思想課長　井本
同　勝田事務官

文部省

○總務局總務課長　伊藤
同　福田事務官
○體育局勤勞課長　石井
同　高橋体育官
同　岩野体育官

遞信省

官房遞信檢閲室　安西書記官
總務局總務課長　初[illegible]
○同　今井事務官
同　營繕課長　山田
同　原技師
電務局長　中村
電務局業務課長　加藤
○同　辻翔事務官
同　規整課　金光事務官
工務局長　松前
同　線路課長　吉田
○同　橋本技師
海務院　今村課長

鐵道省

○同　猪口海務官
電氣局企畫課　山口課長
同　重　事務官
同　電力課　築　記技
○同　八木技師
○官房　近藤鐵道監
官房祕書課　岡田課長
同　鬼山鐵道官
○總務局動員課　小幡課長
○同　松田鐵道官
同　主計課　阿部鐵道官
動員局勞力課　高折課長
同　山川鐵道官
監理局監理課　島村課長

監理局監理課　信澤鐵道官
同　自動車第一課　河村鐵道官
○業務局保安課　立松課長
同　竹内鐵道官
同　運行課　吉良鐵道官
同　貨送課　小川鐵道官
施設局保修課　堀越課長
同　谷川鐵道官
同　電力課　梶津課長
同　關鐵道官
資材局工場課　内山課長
同　山縣鐵道官
總務局總務課　齊藤鐵道官

農林省
○ 総務局総務課 石坂 課長
同 小倉 事務官
食糧管理局 湯川 局長
○ 同 第一部企畫課 木村 課長
同 村田 事務官
同 第二部管理課 遠藤 課長
同 武田 事務官

商工省
○ 総務局調査課 池田 事務官
同 総務課 小池 事務官
同 物資動員課 岡田 技師

厚生省
○ 官房総務課 小林 課長
○ 同 瀧野 事務官
生活局保護課 青柳 課長
同 増子 事務官
同 住宅課 豊原 課長
勤務局庶務課 吉武 課長
同 三川 事務官

情報省
官房第一部第一課 福田 課長

内閣総務局
総務課 稲田 課長
○ 同 佐野 理事官

備考

一、○印ハ研究主任官ヲ示ス
研究主任官ハ研究業務ノ主幹トナリ關係課間ノ連絡其ノ他ニ任ズ

二、本表ニ示ス以外ト雖モ研究事項ニ應ジ各部局毎ニ適宜研究員ヲ設クルモノトス

三、指導部員ハ研究員ヲ兼ヌルモノトス

供覧

陸軍省兵務局防衛課

中央官廳防空研究會實施ノ件通牒

昭和十八年三月十五日

中央官廳防空研究會指導本部

内閣書記官 収 御中

首題ノ件來ル三月十七日九時ヨリ研究會々場（軍人會館二階）ニ於テ實施致スニ付同時刻迄ニ指導部員、研究員全員集合相煩度

追而當日ハ主宰者トシテノ陸軍次官ノ挨拶終了後研究會日課豫定ニ依リ行動進行致ス可キニ付申添フ

研究員

稲田課長

佐野理事官

指導部員並ニ研究員參集ニ關スル件

中央官廳防空研究會指導本部

昭和十八年三月十五日

關 御中

中央官廳防空研究會日課豫定表中「內務省」「鐵道省」等其ノ研究主要課目、時間ヲ示シアルモ關係指導部員、研究員ハ其ノ都度集合相煩度

追而指導本部ヨリ其ノ都度集合方通牒セザルニ付了解相成度

尚各課目ノ時間進行ハ行動ノ都合上嚴守セラレ度申添フ

「附記」 研究會御列席ノ節ハ認印必要アルニ付御手數ナガラ御持參相成度

中央官廳防空研究會々場案内ノ件

昭和十八年三月十五日

中央官廳防空研究會指導本部

課御中

首題ノ件左記ノ如ク配室シアルニ付承知相成度

尙入口ニ掲示シアルニ付申添フ

左記

防空研究會々場案内

一、研究會々場　軍人會館三階大廣間

二、貴賓休憩室　同二階第一應接室（研究會々場隣室）

三、指導本部員室　同四階休憩室

四、指導本部事務室　同三階休憩室

五、指導部員研究室　同四階廳ノ間

（指導本部員室隣）

御案内

中央官廳防空研究會指導本部

昭和十九年三月十五日

來ル三月十七日ヨリ開始セラルル中央官廳防空研究會ノ行事ノ都合上晝、夕食必要ノ方ハ其ノ都度指導本部庶務ニ連絡ノ上食券ヲ携行食堂ニ御足勞相煩度

中央官廳防空研究會日課豫定

指導本部

日時	13	15	17	19	20	21	23	24	26	27
	土	月	水	金	土	日	火	水	金	土
研究事項	研究會ノ要領想定其ノ他ニ就キ説明ス		第一次空襲ノ被害ヲ研究ス		第一次空襲ニ關スル對策ノ研究				要スレハ第一次空襲ニ關シ實行部面ニ就キ檢討ス	第二次空襲ノ被害對策ノ研究及綜合研究
研究時間割 (9h–21)	14–18 ↕		內 鐵 遞 商 農 大 厚 文 司 軍需生産		內 鐵 遞 (海陸運輸)	遞 (通信 電力) 商 商 農、厚、大	軍需生産	治安 文 報道 宣傳 中央官廳機能維持		軍需生産: 內、鐵、遞、商 大、厚、農 懇談
摘要	想定及第一次空襲ノ狀況竝ニ研究問題提示	第一次被害狀況提出		第一次對策提出		第二次空襲ノ狀況及研究問題提示		第二次被害竝對策提出		

アジア歴史資料センター

防空研究會々場電話番號

九段(33)三九ロロ番(研究會々場隣)

仝　三六ロロ番(指導本部事務室)

仝　三七ロロ番(指導本部員室)

中央官廳防空研究會日課豫定表一部訂正ノ件通牒

昭和十八年三月十六日　指導本部

諸　御中

首題ノ件來ル二十七日實施豫定行事ハ二十六日ニ繰上ゲ實施スルニ付承知相成度

御案内

中央官廳防空研究會指揮本部

昭和十八年三月十七日

今次中央官廳防空研究會終了ニ件ヒ來ル三月二十六日一八〇〇ヨリ軍人會館ニ於テ粗餐差進度御來臨相成度

一 追而各課係ニ取纏メ御芳名ヲ三月二十二日迄ニ御通知被下度

一、空襲ニヨル焼失地域圖送付ノ件

昭和十八年三月十八日

中[illegible]部防空研究會

指導本部

内閣資課 御中

五月[illegible]日及五月[illegible]日ノ（状況第一及第二）空襲ニヨル焼失地域別冊一部配布ス

首題ノ研究會ノ内容ハ特ニ密ニ保持ヲ必要トスルニ付研究室入場者ハ研究員見学者タル高等官以上トシ随行セル判任官、雇員等ハ別ニ準備セル待合場ニテ待機セシムルコトトセラレ度

中央官廳防空研究會參集者ニ關スル件

昭和十八年三月十八日

中央官廳防空研究會指導本部

研究主任官 殿

首題ノ研究會ノ内容ハ特ニ機密保持ヲ必要トスルニ付研究室入場者ハ研究員見學者タル高等官以上トシ隨行セル判任官、雇員等ハ別ニ準備セル待合場ニテ待機セシムルコトトセラレ度

大日本帝國政府

庶復第三一號

昭和十八年三月十七日

内閣印刷局長　土屋耕二

内閣官房總務課長　稲田周一殿

昨日電話御來示ノ空襲ノ場合ニ於ケル官報製造機能破壊ノ場合ニ於ケル製造非常對策左記ノ通考慮致候間御通牒申上候

記

官報製造非常對策

一、官報印刷ニ使用ノ輪轉印刷機ヲ破壞セラレタル場合

右情況下ニ在リテハ圖書印刷部製版課ニ於テ製版ノミヲ行ヒ之ヲ直ニA5判輪轉機ヲ有スル共同印刷株式會社（小石川區久堅町一〇八）ニ持參シ紙型鉛版ヲ鑄造シ印刷セシム而シテ右會社ノ輪轉機モ破壞セラレタル場合ハ已ムヲ得ズ現在ノ官報ノ大サ仕上寸法A4ヲB5又ハA5ニ變更シテ大日本印刷株式會社市ケ谷工場（牛込區市ケ谷加賀町一ノ一二）、同社榎町工場（牛込區榎町七）、凸版印刷株式會社（下谷區二長町一）等ノ有力ナル印刷會社ヲ徵用シ製造スル計畫ナリ

二、製版室ノ機能喪失セル場合

共同印刷株式會社、大日本印刷株式會社市ケ谷工場及同榎町工場、川口印刷株式會社（芝區西芝浦三丁目二）、三秀舍（神田區美土代町一ノ六）等ノ會社ニテ製版セシメソノ版ニヨリ當局丸ノ內工場ニテ製造ヲ進メントス

三、輪轉機及製版ノ機能ヲ同時ニ喪失セル場合
共同印刷株式會社ニテ製造セシメントス

四、電源ヲ失ヒタル場合

(1) 局内ニ於テ電源ヲ失ヒタル場合
第一項ニ準ズ

(2) 東京市一般ガ電源ヲ失ヒタル場合
圖書印刷部製版課ニ於テ組版ヲ爲シ同部圖書印刷課ニ於ケル平壓印刷機及斷裁機ヲ使用シ手動ニ依リ少部ナリト雖モ製造ヲ續行スルモノトス

五、郵送及配送用ノ宛名帶紙ノ準備
空襲ニ備ヘ常ニ宛名原簿及帶紙一回分ノ豫備ヲ耐火性煉瓦建第三十七號家地下室ニ保管セシメ而シテ右地下室燒失スル虞アル場合ハ直ニ之ヲ安全地帶ニ搬出セシメ非常ニ備ヘントス

備考

民間工場ノ徴用、使用

當局工場機能ノ破壊セラレタル場合ニ於ケル民間工場徴用方ニ關シテハ兼ニ東部軍司令部並ニ内閣官房總務課ニ對シ依頼シ置キ在ルモ特ニ官報製造機能破壊セラレタル場合ハ左ノ順位ニ依リ徴用方手續取運ビ願度

徴用順位	會社名	所在地
第一順位	共同印刷株式會社	小石川區久堅町一〇八
第二順位	大日本印刷株式會社市ケ谷工場	牛込區市ケ谷加賀町一ノ一二
同	同　榎町工場	牛込區榎町七
第三順位	凸版印刷株式會社	下谷區二長町一
第四順位	東京證券印刷株式會社	王子區神谷町一ノ四八二

尚必要アル場合ハ右徴用工場ノ外左記民間會社モ使用致度

川口印刷株式會社　芝區西芝浦三丁目二

大日本帝國政府

株式會社　三秀舍　神田區美土代町一六

大日本帝國政府

川口印刷株式會社　深川區西元町三丁目二

尚必要アル場合ハ右印刷工場ノ外左記印刷會社ヲ使用ス

印刷所　東京印刷株式會社　王子區堀船町一ノ四八二

第三印刷所　凸版印刷株式會社　下谷區二長町一

同　　　　　製本工場　牛込區榎町七

第二印刷所　大日本印刷株式會社市ヶ谷工場　牛込區市谷加賀町一ノ一二

第一印刷所　共同印刷株式會社　小石川區久堅町一〇八

發行所　　　內閣印刷局

印刷及製本

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

備考

研究記事資料提出相成度件

昭和十八年三月二十三日

中央官廳防空研究會

指導本部

義ニ研究會席上ニ於テ豫メ連絡致セシ首題ノ件左記要領ニ依リ提出方

御願相煩度

左　　記

一、記載事項

1. 主要研究事項及其内容ノ骨子
2. 主要ナル對策
3. 將來特ニ研究ヲ要スヘキ事項
4. 其ノ他特記スヘキ事項

二、提出期日

三月三十日一二〇〇迄ニ陸軍省防衛課

三、其ノ他

イ、各省毎ニ主任者一括取纏メラレ度

ロ、要點ヲ簡明ニ記載セラレ度

極秘

内閣官房総務課

中央官廳防空研究会ヘ研究記事資料ヲ提出スルコトニナツテ居リマスノデ私案ヲ作リ差上グルカ同会指導部ヘ提出シテ可然哉

（昭和一八、三、三〇
内閣官房總務課）

中央官廳防空研究會

研究記事資料

一、主要研究事項及其ノ内容ノ骨子

(イ)主要部局ノ空襲ニ依ル根本的破壊

部内主要部局（中央官廳）ヲ目標トシテ大ナル空襲ヲ受ケ人的及物的ニ其ノ機能維持ニ影響スルガ如キ被害ニ對スル措置

(ロ)中央官廳機能維持上特ニ重要視スベキ印刷局ニ大ナル空襲被害ヲ受ケタル場合ノ措置

(ハ)主要部局ノ警備員ノ確保

三月三十日一二〇〇迄ニ陸軍省防衛課
三、其ノ他
1、各省毎ニ主任者一括取纏メラレ度
2、要點ヲ簡明ニ記載セラレ度

極秘

内閣官房總務課

研究員

（昭和一八、三、三〇）
内閣官房總務課

中央官廳防空研究會

研究記事資料

一、主要研究事項及其ノ内容ノ骨子

(イ)主要部局ノ空襲ニ依ル根本的破壊
部内主要部局（中央官廳）ヲ目標トシテ大ナル空襲ヲ受ケ人的及物的ニ其ノ機能維持ニ影響スルガ如キ被害ニ對スル措置

(ロ)中央官廳機能維持上特ニ重要視スベキ印刷局ニ大ナル空襲被害ヲ受ケタル場合ノ措置

(ハ)主要部局ノ警備員ノ確保

二、主要ナル對策

(一)主要研究事項(イ)ニ對スルモノ

1.現存ノ容易ニ被害ヲ蒙リ易キ脆弱ナル官廳ノ建物ニ對シテハ努メテ防火壁、防火扉、防火設備ノ補强ヲ圖ルコト

2.許ス限リ豫メ官廳ノ移轉疎散ヲ圖ルコト

3.被害後ノ移轉先ヲ各廳綜合的ニ調整準備シ置クコト

4.物資ノ許ス限リ對空設備ノ完備セル建築ニ改築スルコト

5.主要官廳間ノ通信連絡ノ方法ヲ準備シ置クコト

6.職員ノ人命保護ニ適切ナル設備ヲ完備スルコト

7.要警備物件ノ警備ヲ遺憾ナカラシムルコト

(二)主要研究事項(ロ)ニ對スルモノ

1.總動員業務以外ノ官廳業務(例ヘバ官報、週報、官廳用印刷等)ニ付キテモ民間工場設備及人員ヲ使用徴用シ得ル如キ制度ヲ設クルコト

2.印刷工場ヲ特ニ對空設備ノ完備スル如ク改築スルコト

3.民間工場ノ代用準備ヲ完備シ置クコト

4.機械ノ豫備、復舊方法ヲ考究スルコト

5.印刷工場ノ警備ハ特ニ重キヲ置クコト(例ヘバ軍ニ於テモ)

6.民間工場ヲ使用スル場合ノ機密保持ノ方法ヲ考慮シ置クコト

(三)主要研究事項(ハ)ニ對スルモノ

1.主要部局ノ警備員ノ救護ニ付豫メ收容箇所ヲ綜合的ニ順位ヲ附シテ決定シ置クコト

アジア歴史資料センター

2. 警備員ノ食糧ニ付準備シ置クコト

三、將來特ニ研究スベキ事項

1. 中央官廳ノ對防空的設備及建築ヲ完備スルコト

2. 被害ノ爲重要官廳職員極度ノ減少ヲ見タル場合ノ人員ノ確保

3. 中央官廳ノ救護備所（設備）ノ綜合調整

四、其ノ他特記スベキ事項

ナシ

極秘

（昭和一八、三、三〇 内閣官房總務課）

中央官廳防空研究會

研究記事資料

一、主要研究事項及其ノ内容ノ骨子

(イ)主要部局ノ空襲ニ依ル根本的破壞

部内主要部局（中央官廳）ヲ目標トシテ大ナル空襲ヲ受ケ人的及物的ニ其ノ機能維持ニ影響スルガ如キ被害ニ對スル措置

(ロ)中央官廳機能維持上特ニ重要視スベキ印刷局ニ大ナル空襲被害ヲ受ケタル場合ノ措置

(ハ)主要部局ノ警備員ノ確保

二、主要ナル對策

(一)主要研究事項(イ)ニ對スルモノ

1 現在ノ容易ニ被害ヲ蒙リ易キ脆弱ナル官廳ノ建物ニ對シテハ努メテ防火壁、防火扉、防火設備ノ補強ヲ圖ルコト

2 許ス限リ豫メ官廳ノ移轉疎散ヲ圖ルコト

3 被害後ノ移轉先ヲ各廳綜合的ニ調整準備シ置クコト

4 物資ノ許ス限リ對空設備ノ完備セル建築ニ改築スルコト

5 主要官廳間ノ通信連絡ノ方法ヲ準備シ置クコト

6 職員ノ人命保護ニ適切ナル設備ヲ完備スルコト

7 要警備物件ノ警備ヲ遺憾ナカラシムルコト

(二)主要研究事項(ロ)ニ對スルモノ

1 總動員業務以外ノ官廳業務(例ヘバ官報、週報、官廳用印刷等)ニ付キテモ民間工場設備及人員ヲ使用徴用シ得ル如キ制度ヲ設クルコト

2 印刷工場ヲ特ニ對空設備ノ完備スル如ク改築スルコト

3 民間工場ノ代用準備ヲ完備シ置クコト

4 機械ノ破損、復舊方法ヲ考究スルコト

5 印刷工場ノ警備ハ特ニ重キヲ置クコト(例ヘバ軍ニ於テモ)

6 民間工場ヲ使用スル場合ノ機密保持ノ方法ヲ考慮シ置クコト

(三)主要研究事項(ハ)ニ對スルモノ

1 主要部局ノ警備員ノ救護ニ付豫メ收容箇所ヲ綜合的ニ順位ヲ附シテ決定シ置クコト

2 警備員ノ食糧ニ付準備シ置クコト

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

三、将来特ニ研究スベキ事項

1 中央官庁ノ対防空的設備及建築ヲ完備スルコト

2 被害ノ為重要官庁職員極度ノ減少ヲ見タル場合ノ人員ノ確保

3 中央官庁ノ救護個所（設備）ノ総合調整

四、其ノ他特記スベキ事項

ナシ

極秘

中央官庁防空研究会ニ関スル事務通報事項

逓信省

昭和十八年四月五日次官会議
陸軍法務部

一、研究会ハ概ネ協定ノ如ク三月十九日ヨリ二十六日ノ間五日ニ亘リ極メテ熱心ニ実施セラレ其ノ状況ハ夫々参加者ヨリノ報告ニ依リ既ニ承知セラレタル所ト思考スルモ将来ノ参考トシテ紹介ス

即チ今次研究ハ空襲時ニ於クル中央官庁ノ機能維持、軍需生産ノ確保並ニ治安ノ維持等ヲ主要着眼トシテ実施セルモ一般ニ速ニ対処スヘキ缺陥頗ル多ク綜合的ニ研究結果ヲ述フレハ左ノ如シ

1. 防空抗堪力ニ就テ

東京ハ百乃至百五十機、阪神、名古屋、北九州等ハ四、五十機ノ反覆空襲ヲ受クル時ハ第一次ノ空襲ニ於テ該防空力ノ損耗例ヘハ消防力、運輸、通信能力、警報救護能力、又諸復旧能力等ハ忽チ低下シ第二次以後ノ空襲ニ対シテハ各方面共非常手段ヲ以テ諸対策ヲ講セサレハ戦争遂行上ノ重要方面ノ機能維持例ヘハ軍需生産ノ維持、重

要都市ノ治安維持等ヲ確保シ得ザル如ク觀察セラレタリ

註 非常手段ノ例

1. 重要都市ニ於ケ方所在ノ「ポンプ」ノ徹底集中
2. 防空空地帶ノ設定（事前破壞消防）
3. 非重要方面ノ電燈、通信線ヲ外シテ重要方面ノ復舊用トシテ充當ス
4. 醫師特ニ外科醫ノ都市ニ集中使用

等

2. 防空力ノ結集發揮ニ就テ

今次研究ニ於テハ小ハ五十機內外大ハ八百、百五十機ニ上ル機數ヲ以テスル空襲下ノ各種被害ノ様相ヲ一應勢察セラシメ得タルヲ以テ各省防空主務官モ自防空施策ノ策定ニ方リテノ一ノ基準ヲ把握セラレタルモノト信スルモ防空ノ事タルヤ廣汎多岐且深刻ニシテ各省間相互關聯事項極メテ多ク常時緊密ニ連絡シ綜合且重點的ニ準備シ置カサレハ我カ國都市並ニ諸經營機能ノ現狀及特異性ヨリシテ防空上ノ諸缺陷ヲ累加暴露スルモノト認識セラレタリ。

3. 爾後ノ研究及對策準備ニ就テ

今次研究ノ結果ニ徴シ上述ノ外務省ノ論議ヲ經タルモ各省ニ於カレテモ更ニ實行部面ニ當リ深刻ニ檢討セラルル如ク研究ヲ實施セラルルノ緊切ナルモノアルヲ痛感セルモノニシテ實施セラルル場合ニハ官ヨリモ協力ヲ惜マス

尚經濟準備ニ關シテハ今次研究ノ結果ニ鑑ミルモ未タ平時的觀念ニ拘泥シアル面モ尠カラス又依然各種ノ物資ヲ以テセサレハ經營シ得サルカ如キ解ナシトセサルヲ以テ特ニ現下ノ國內ノ情勢ニ應スルカ如ク創意工夫不能モ能ト化スルカ如ク努力セラレ敵ノ企圖スル經反攻ニ對シ萬全ノ經濟ヲ諮セラレ度

ニ、空襲ヲ體驗シ施策ヲシテ實際ニ即應セシムル爲「ビルマ」ノ現狀觀察ニ就テ

空襲ノ記録無クシテハ施策切實ナラサルハ當然ナルヲ以テ各省主務官ヲシテ「ビルマ」ノ空襲現状ヲ個所調査セシメ施策ヲシテ實際ニ即應セシムル爲適宜ニ於テ調査ヲ斡旋セント企圖シアリ不取敢御關係者七、八名ヲ近ク派遣シ得ル運ビニナリアリテ航空便ノ許ス限リ第二次トシテ技術關係者ノ派遣ヲ斡旋セント研究中ナリ

供覧
極秘
内閣書記官

各書記官回覧

中央官廳防空研究會ニ關スル事務通報事項　遞信省

一、研究會ハ概ネ豫定ノ如ク三月十九日ヨリ二十六日ノ間五日ニ亙リ極メテ熱心ニ實施セラレ其ノ状況ハ夫々參加者ヨリノ報告ニ依リ既ニ承知セラレタル所ト思考スルモ將來ノ參考トシテ紹介ス

即チ今次研究ハ空襲時ニ於クル中央官廳ノ機能維持、軍需生産ノ確保並ニ治安ノ維持等ヲ主要着眼トシテ實施セルモ一般ニ速ニ對處スヘキ缺陷頗ル多ク綜合的ニ研究結果ヲ述フレハ左ノ如シ

1 防空抗堪力ニ就テ

東京ハ百乃至百五十機、阪神、名古屋、北九州等ハ四、五十機ノ反覆空襲ヲ受クル時ハ第一次ノ空襲ニ於テ諸防空力ノ損耗例ヘハ消防力、運輸、通信能力、救護能力、又諸復舊能力等ハ忽チ低下シ第二次以後ノ空襲ニ對シテハ各方面共非常手段ヲ以テ諸對策ヲ講セサレハ戰爭遂行上ノ重要方面ノ機能維持例ヘハ軍需生産ノ維持、重

要都市ノ治安維持等ヲ確保シ得サル如ク觀察セラレタリ

註 非常手段ノ例

1. 重要都市ニ地方所在ノ「ポンプ」ノ徹底集中
2. 防空空地帯ノ設定（事前破壊消防）
3. 非重要方面ノ軌道、通信線ヲ外シテ重要方面ノ復舊用トシテ充當ス
4. 醫師特ニ外科醫ノ都市ニ集中使用

等

2. 防空力ノ結集發揮ニ就テ

今次研究ニ於テハ小ハ五十機内外大ハ百、百五十機ニ上ル機數ヲ以テスル空襲下ノ各種被害ノ様相ヲ一應考察セシメ得タルヲ以テ各省防空主務官モ諸防空施策ノ策定ニ方リテノ一ノ基準ヲ把握セラレタルモノト信スルモ防空ノ事タルヤ廣汎多岐且深刻ニシテ各省間相互關聯事項極メテ多ク常時緊密ニ連絡シ綜合且重點的ニ準備シ置カサレハ我カ國都市故ニ諸設備機能ノ現狀及特異性ヨリシテ防空上ノ諸缺陷ヲ累加露呈スルモノト認識セラレタリ

3. 爾後ノ研究及對策準備ニ就テ

今次研究ノ結果ニ徴シ上述ノ外幾多ノ教訓ヲ得タルモ各省ニ於カレテモ更ニ管行部面ニ亙リ深刻ニ檢討セラルル如ク研究會ヲ實施セラルルノ緊切ナルモノアルヲ痛感セルモノニシテ實施セラルル場合ニハ當ヨリモ協力ヲ惜マス

尚鋭意準備ニ任シテハ今次研究ノ結果ニ鑑ミルモ未タ平時的觀念ニ拘泥シアル面モ少カラス又依然各種ノ物資ヲ以テセサレハ實施シ得サルカ如キ弊ナシトセサルヲ以テ特ニ現下ノ國内ノ情勢ニ應スル如ク創意工夫不能モ能ト化スル如ク努力セラレ敵ノ企圖スル總反攻ニ對シ萬全ノ措置ヲ講セラレ度

二、空襲ヲ體驗シ施策ヲシテ實際ニ即應セシムル爲「ビルマ」ノ現狀視察ニ就テ

空襲ノ體驗無クシテハ施策切實ナラサルハ當然ナルヲ以テ各省主務官ヲシテ「ビルマ」ノ空襲現状ヲ體驗觀察セシメ施策ヲシテ實際ニ即應セシムル爲適宜ニ於テ關係ヲ斡旋セント企圖シアリ不取敢指導關係者七、八名ヲ近ク派遣シ得ル運ビニナリアリテ航空便ノ許ス限リ第二次トシテ技術關係者ノ派遣ヲ斡旋セント研究中ナリ

防衛密第八七號

秘密書類返納方ニ關スル件

昭和十八年五月三日

陸軍省兵務局防衛課

内閣佐野理事官殿

中央官廳防空研究ノ爲貸付セシ別紙秘密書類至急返納相成度

秘密地圖（返納）貸付表

一連番號	圖名	貸付年月日	保管者印	借用者	借用者印	返納年月日
軍事機密 天九[illegible]號	神奈川（一萬分ノ一 東京灣要塞近傍）	昭和十八年[illegible]月十[illegible]日				
〃 〃 九[illegible]號	生麥（同右）					
〃 〃 九[illegible]號	横濱港口（同右）					
〃 〃 九弐號	横濱（同右）					
〃 〃 九四號	保土ケ谷（同右）					
秘 天五六八號	下關（二萬五千分ノ一 下關要塞近傍）					
〃 六九五號	小倉市（同右）					
〃 六九五號	八幡市（同右）					
〃 [illegible]九號	折尾（同右）					
〃 [illegible]號	西紋鼈（五萬分ノ一 室蘭近傍）					
〃 [illegible]號	室蘭（同右）					
軍事極秘 秘 天 [illegible]號	登別溫泉（五萬分ノ一 室蘭近傍）					

內閣情報局

昭和十八年五月四日

内閣官房總務課

佐野理事官

陸軍省兵務局防衛課　御中

本月三日防衛密第八七號ヲ以テ御申越シノ機秘密地圖返納方ニ關スル件了承別紙ノ通返戻ニ及ビ候條御查收ノ上領收書御送付相煩度

内閣

B5 タイプライター用紙

アジア歴史資料センター

秘密地圖返戻表

一連番號	圖名
軍事機密 天九壹號	神奈川（一萬分ノ一 東京灣要塞近傍）
〃 〃 九參號	生麥（同右）
〃 〃 九四號	横濱港口（同右）
〃 〃 九貳號	横濱（同右）
〃 〃 九四號	保土ケ谷（同右）
秘 天五貳八號	下關（二萬五千分ノ一 下關要塞近傍）
〃 六九五號	小倉市（同右）
〃 六九五號	八幡市（同右）
〃 參〇九號	折尾（同右）

内閣

秘密地圖返戻表

一連番號	圖名
軍事機密 天九壹號	神奈川（一萬分ノ一 東京灣要塞近傍）
〃〃 九參號	生麥（同右）
〃〃 九四號	横濱港口（同右）
〃〃 九貳號	横濱（同右）
〃〃 九四號	保土ケ谷（同右）
秘 天五貳八號	下關（二萬五千分ノ一 下關要塞近傍）
〃 六九五號	小倉市（同右）
〃 六九五號	八幡市（同右）
〃 參〇九號	折尾（同右）

右正ニ領收候也

昭和十八年五月四日

陸軍省兵務局防衛課（印）